

News Release

2020年2月27日
NITE（ナイト）
独立行政法人製品評価技術基盤機構
製品安全センター（東京）

電子レンジの事故にご注意ください ～関東甲信越における事故を中心に～

1. 関東甲信越地方の電子レンジの事故

（1）年度別事故発生件数と被害状況

家電量販店などでは新生活を迎える方々に向け、電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機、掃除機及び炊飯器がひとまとめとなった新生活用セットが販売され始めました。2014年度から2018年度までの5年間でNITE（ナイト）が収集した製品事故情報^{※1}において、関東甲信越地方の1都9県（茨城県、群馬県、埼玉県、山梨県、新潟県、神奈川県、千葉県、長野県、東京都、栃木県）で発生した電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機、掃除機及び炊飯器による事故は計220件^{※2}ありました。そのうち電子レンジの事故は65件あり、他の製品よりも多く発生しています。電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機、掃除機及び炊飯器による事故について、関東甲信越地方の都県別の製品ごとの事故発生件数を表1、電子レンジの事故の年度別事故発生件数を表2、被害状況別事故発生件数を表3、原因区分別事故発生件数を表4に示します。

※1 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

※2 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

表1. 製品ごとの事故発生件数

製品名	茨城県	群馬県	埼玉県	神奈川県	千葉県	東京都	栃木県	長野県	新潟県	山梨県	合計
電子レンジ	1	1	7	10	5	33	5	1	2		65
電気洗濯機	2	4	13	3	6	22	1	1		1	53
冷蔵庫	3	2	4	9	5	23		1	4		51
電気掃除機	1	1	4	13	4	19	3		1	1	47
電気炊飯器		1				2	1				4
合計	7	9	28	35	20	99	10	3	7	2	220

表2. 電子レンジの年度別事故発生件数

		茨城県	群馬県	埼玉県	神奈川県	千葉県	東京都	栃木県	長野県	新潟県	山梨県	合計
事故発生年度	2014年度		1	2	4	1	6	3	1			18
	(内数)火災事故		(1)	(1)	(2)	(1)	(3)	(2)	(1)			(11)
	2015年度			2	2	1	8					13
	(内数)火災事故			(1)	(1)	(1)	(6)					(9)
	2016年度	1			1	1	6	1				10
	(内数)火災事故	(1)			(1)		(6)					(8)
	2017年度			2	3	2	8	1		1		17
	(内数)火災事故			(2)	(3)	(2)	(7)	(1)		(1)		(16)
2018年度			1			5			1		7	
(内数)火災事故			(1)			(5)			(1)		(7)	
合計		1	1	7	10	5	33	5	1	2	0	65
(内数)火災事故		(1)	(1)	(5)	(7)	(4)	(27)	(3)	(1)	(2)	(0)	(51)

表3. 電子レンジの被害状況別事故発生件数※4

		茨城県	群馬県	埼玉県	神奈川県	千葉県	東京都	栃木県	長野県	新潟県	山梨県	合計	
被害状況	人的被害	死亡										0	
		重傷										0	
		軽傷			1	1		1					3
	物的被害	拡大被害		1		6	2	7	2	1	1		20
		製品破損	1		5	2	3	22	2		1		36
		被害なし			1	1		3	1				6
合計		1	1	7	10	5	33	5	1	2	0	65	

※3 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

表 4. 電子レンジの原因区分別事故発生件数

区分	事故原因区分説明	茨城県	群馬県	埼玉県	神奈川県	千葉県	東京都	栃木県	長野県	新潟県	山梨県	合計
製品に起因する事故	A 設計、製造又は表示等にも問題があったもの		1		3	1	11		1			17
	B 製品および使い方に問題があったもの											0
	C 経年劣化によるもの			1						1		2
	G3 製品起因であるが、その原因が不明のもの			2	3	1	3	1				10
	小計	0	1	3	6	2	14	1	1	1	0	29
製品に起因しない事故	D 施工、修理又は輸送等にも問題があったもの											0
	E 誤使用や不注意によるもの			1	2	1	2	1				7
	F その他製品に起因しないもの						3	1				4
	小計	0	0	1	2	1	5	2	0	0	0	11
その他	G 原因不明のもの	1		1	2	1	10	2				17
	H 調査中のもの			2		1	4			1		8
	小計	1	0	3	2	2	14	2	0	1	0	25
合計		1	1	7	10	5	33	5	1	2	0	65

(2) 関東甲信越地方において発生した電子レンジの事故事例

① カイロの過熱による事故

・ 2017年12月、埼玉県、製品破損

(事故内容)

電子レンジを使用中、電子レンジの庫内を焼損する火災が発生した。

(事故原因)

使用者は電子レンジで加熱して使うカイロを、取扱説明書に記載された高周波出力600W、加熱時間30～40秒を超える、出力700Wで3～4分加熱したため、カイロが過熱し、出火したものと推定される。

なお、カイロの取扱説明書には、「やけどや焦げ、破裂を防ぐため、温めすぎに注意する。」「700W以上のレンジは、500～600Wに設定して、一度に2分以上加熱しない。」旨、記載されている。

② 故障状態で使い続けていたことによる事故

・ 2018年3月、東京都、製品破損

(事故内容)

電子レンジを使用後、電子レンジを焼損する火災が発生した。

(事故原因)

使用者は、電子レンジのローラーが故障し、庫内の金属回転台が回転しない状態のまま使用し続けていたため、傾いた金属回転台と底面の金属部が接触するとともにスパークが発生し、発熱したことで底面の樹脂製部品に着火したものと推定される。

なお、事業者から提供された取扱説明書には、「故障したときは販売店に修理を依頼する。」旨、記載されている。

③ 付着した食品かすの発火事故

・ 2018年5月、東京都、製品破損

(事故内容)

電子レンジを使用中、電子レンジを焼損する火災が発生した。

(事故原因)

庫内内壁に食品かすが付着していたため、マイクロ波が食品かすに集中してスパークが発生し、焼損したものと推定される。

なお、取扱説明書には「庫内、ドア内側が汚れたら、すぐ拭き取る。」、「庫内に食品かすや油がついたままになると火花が出る。」旨、記載されている。

2. 電子レンジの事故の再現実験映像について

以下の映像をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

(1) 実験映像内容

① 生卵の破裂 (2. (2) 写真1)

② 肉まんを加熱し過ぎて発火 (2. (2) 写真2)

(そのほか)

③ 真水の突沸

④ インスタントコーヒーを入れて突沸

⑤ 食品が過加熱で発火

⑥ 庫内の汚れが発火

⑦ ゆで卵の破裂

⑧ アルミパウチのスパーク

(2) 実験映像例



写真1. 生卵の破裂



写真2. 肉まんを加熱し過ぎて発火

(本件に関する問い合わせ先)

〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-10

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 製品安全センター 技術業務課

担当者：松本（まつもと）、長谷川（はせがわ）、佐藤（さとう）

電話：03-3481-1820